

誇りある歴史に包まれ、未来へ羽ばたく

菊陽町

今からさかのぼること約410年前——。加藤清正は熊本市と大分県大分市鶴崎を結ぶ「豊後街道」を整備し、敵が攻めてきたときの侵入防止や熊本城修築などの目的で20キロの長さに渡り、杉を植えました。現在は菊陽町を中心に杉が立ち並ぶだけですが、この歴史的遺産を守ろうと屋久島から屋久杉の苗木を取り寄せたことから屋久島町(旧屋久町)との交流が始まりました。歴史あふれるこの豊後街道菊陽杉並木は1986年に「日本の道百選」にも選ばれています。

「後の世のため」が口癖だった加藤清正は土木事業にも力を注ぎ、馬場楠地区に鼻ぐり井手を築きました。この鼻ぐりの仕組みは全国に類を見ないもので、現在でも約181ヘクタールの田畑を潤しています。

県道311号沿いに約4キロに渡ってきれいに整備されている鉄砲小路地区の生垣は祝日には国旗が掲揚され、散策路として親しまれています。この地区名は加藤家の改易で熊本藩主になった細川忠利が鉄砲衆を置いたことに由来します。「くまもと景観賞」や「くまもと歴町50選」などを受賞し、地域でこの生垣を守る取り組みが行われています。



馬場楠の獅子舞



大型複合遊具があるひかりのもり公園



大勢の花見客が訪れる菊陽杉並木公園「さんさん」



菊陽武蔵剣豪太鼓



「くまもと景観賞」「くまもと歴町50選」に選ばれた鉄砲小路の生垣



菊陽町夏まつり(花火)

杉と桜と菜の花に囲まれて走る九州横断特急(豊後街道菊陽杉並木)



上津久礼眼鏡橋



お法使祭



南郷往還跡



蘇古鶴神社の楼門



豊後街道菊陽杉並木



阿蘇くまもと空港



鼻ぐり井手(外部)

右: 加藤清正
左: 頼山陽詩碑